



池袋事務所 〒170-0013 東京都豊島  
区東池袋1丁目34番5号 いちご東池袋  
ビル 6階

info@bandaiho.com



万代宝書房

練馬事務所 〒176-0012 東京都練  
馬区豊玉北5丁目24-15-1003

03-5956-0140



/

万代宝書房について

HOME / [会社概要](#) [出版業界の今](#) [書籍の種類選びについて](#) [万代宝書房の方針と出版の基本形態](#) / [プライバシーポリシー](#) / [お問い合わせ](#)

2019年9月27日 | 渡辺剛 |

## 万人の知恵CHANNEL【第6回】なぜ結婚すべき？～結婚して幸せになる人とは？～

vol.6 なぜ結婚すべき？～結婚して幸せに...



釣部：皆さん、こんばんは。

工藤：こんばんは。

釣部：万代宝書房「万人の知恵CHANNEL」の時間になりました。今日もヒマナイヌスタジオで開催しております。大勢の方に来ていただいております。ありがとうございます。【ギャラリーから拍手】

今日もメインゲストに工藤直彦さんに来ていただいております。

工藤：いつもありがとうございます。今日もよろしく申し上げます。

釣部：では、ちょっと自己紹介をお願いいたします。

工藤：工藤と申しまして、音楽の仕事と、あと哲学を教えたりしております。

釣部：ありがとうございます。前回の収録で我欲、私心、「ああ、そうなんだ」と、ただ見られれば、うまくいくことが多いという話だったのですけれども、それが一番しにくいのが...、一番ではないですね、結構しにくいのが、奥さんだったり、パートナーだったりだと思えるのですよ。その辺、どうしてパートナーとの間に（我欲が）出やすいかというのは、ご経験も含めて（笑）。

工藤：まあ一番近いからでしょうね。だから、「分かっているはずだ」みたいな思い込みがあるじゃないですか。実はお互い分かっていないのですが、「分かっているはずだ」と。だから親子関係とか夫婦関係とか、近い人の方が、何かわだかまりが起きた時に解決しにくいですね。「ああ、そうなんだ」と言えない相手って、やっぱり家族でしょうね。

SEARCH

### お知らせ

[万人の知恵CHANNEL【第6回】なぜ結婚すべき？～結婚して幸せになる人とは？～](#)

[万人の知恵CHANNEL【第5回】怒らない方法って？ ～「ああ、そうなんだ」の極意～](#)

[75点の英語力で充分伝わる～「ちよまる式英語コミュニケーション」に出会って](#)

[人生を支える言葉!～いざという時、断片的に覚えていた言葉が人生を支える!](#)

[万人の知恵CHANNEL【第4回】成し遂げた人とその他大勢の違いはコレ!～ピュッアピュア♪マインド～](#)

### カテゴリー

[お知らせ](#)

[万人の知恵CHANNEL](#)

[出版・書籍紹介](#)



釣部：僕、昔師匠に言われたのは、（当時、ある）女性といて、お付き合いはしていないんですけど、「誰々さんと（気が）合うんですよ」と言って、だからこの人と結婚したら幸せだろうなと思って、そんな話をしたら、「駄目だよ、お前」と。「何ですか？合うじゃないですか！」と返せば、「お前ら2人は合うから、世間と2人が別な人間になるぞ」と。「お前ら2人だけの世界に入って行って、社会から見ると、「何だあいつら？」という2人になる可能性があるから」。

工藤：なるほどね、面白い。

釣部：「感性の統一というか調整が結婚なのだから、できるだけ合わないやつがいいのだ」と言われて。「ええっ？勘弁してくださいよ」と返して。結局その方とお付き合いはしなかったのですが、何か今その話を思い出したのですけれども...。要は（2人は）違う。同じという人はいない？

工藤：いない、いない。

釣部：前提ですよ？

工藤：いないに決まっていますよ。多分夫婦というのは、語るほどのことはないですけども、**トレーニング効果の高いのがペアになっている**のだと思いますよ。負荷が大きい方がトレーニング効果高いじゃないですか。

釣部さんも体育会出身でしょう？僕も体育会出身なので（笑）。負荷が少ないと、楽だけれども、鍛えられないじゃないですか。負荷が大きいと鍛えられるでしょう？そういう感じだと思えば、「あ、鍛えてくださっている」みたいな...

もう一方で、こっちが向こうを鍛えているというのもあると思うのですけどね。

釣部：まあお互いですよ。

工藤：そう、お互い。

## 事実婚は、是か非か？

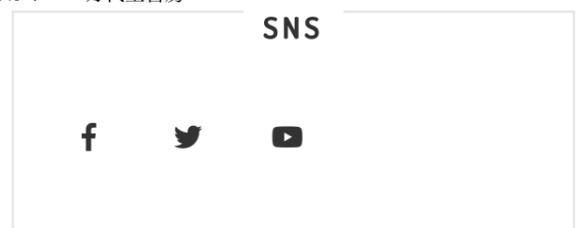
釣部：その中で、今、パートナーとか同棲、事実婚、結婚、それから遠距離恋愛とか、いろいろパターンがありますよね。それについて、僕の場合、事実婚で7年ぐらいいて、今年結婚して、生活も何も変わらないのですよ。ただ苗字が変わったのと、籍を入れた。あと、「妻」と言わざるを得ないというか（笑）、「奥さん」と。前はパートナーとか。同じだけど違うなと思うのですよ。事実婚と限定すると、入籍したということって、やっぱり違うのですよね。

工藤：違うと思いますよ。

釣部：倫理的（倫理法人会の純粋倫理）に言っても。

工藤：倫理的にもそうだけど、まず社会的に圧倒的に違いますよね。事実婚と、言い回しのいい言葉はどんどん増えているけれども、簡単に言うと内縁関係とか同棲状態ということですから、内縁って一般的に言ったら、あまり褒められた言い回しには聞こえないですよ。

やっぱり籍を入れていると...籍を入れると、家と家との付き合いになるじゃないですか。だから「腹をくくっているな」ということが見えてくる。そういったことの違いというのは、世間の見方が変わりますよね。「何で籍入れないんだらう？あそこの2人は」という見られ方をすると、付き合う上で、必ずそこで引っかかっちゃうじゃないですか。



でも、当たり前のように夫婦であれば、「うちの家内です」「うちの旦那です」とか、これ通って。まあ、すっきりするのは、まずあります。世間体に関してはそうですよね。

あとは倫理的（倫理法人会）に言うと、嫁いだ方。嫁ぐというのは別に女子だけの問題じゃなくて、男も嫁ぐことがある訳ですよ。例えば女系の一家で婿さんに入るということあるじゃないですか。昔からある大店（おおだな）の大きい商店。なぜか代々当主が婿さんという家系って意外とあるじゃないですか、面白いことに。

あれも「嫁ぐ」という。男が奥さんの方に嫁ぐというのだけでも、**嫁いだ先の人になる実践というのが、実はすごく大事**なのです。嫁ぎ先の家の人になる実践をしていく。こういうことによって一家が繁栄していくのですね。

例えば、私も男性、釣部さんも男性だけれども、男性側から見ると、自分の両親見てみて、自分の母親って、逆のケースもあるかもしれないけど、基本的に嫁いできているのですよね。自分の家の人じゃなかったはずなのです。それが自分の母親としている訳じゃないですか、自分と同じ苗字を名乗って。だから当たり前と思っているかもしれないけれども、代々それを積み重ねて「家」がある訳でしょう？

今、家の意識というのはあまりなくなっているのかもしれないけど、やっぱり**家の意識**とか、**家系が繁栄する**ということ、しないよりはした方がいいじゃないですか。だからそう考えると、嫁いだ人がその家（嫁ぎ先）の人になる実践をしていくということがすごく大事。

その家の家風とかカルチャーとかを受け入れて、あえて誤解を恐れずに言うと、**染まっ**  
**ていく**ということね。

で、その家の人になる。それが何かいい年になってきた頃には、例えば私は工藤家、釣部さんは釣部家ね。そのお嫁さんが子供たちに対して、「釣部の家ではこうなんだから」という教育をする訳ですよ。「工藤の家ではこうなんだから」——いや、冷静に考えれば、あなた元々工藤の人じゃないじゃない！ということになるのだけど、そうやってバトンを渡されていく訳。

お墓にも入る訳じゃないですか。多分これは、男には感覚的に分かりにくいけれども、自分と血のつながりのない、義理の両親と同じ墓に入るって、どういう感じなのかなと。ちょっと不思議な感覚はあるのですけれども、でもそうやって**家を繋いでい**  
**てる**訳でしょう。

だからその辺のところをないがしろにして、「家系安定させたい」とか、「家系が反映して欲しい」とか、ちょっと虫がいいんじゃないのかなと思う。

私たちの命というのは、親祖先から受け継いでいる訳でしょう？親祖先から受け継いだ良い個性（たち）※<sup>1</sup>というのを世間に使っていくと、僕たちはハッピーになれるようになっているのですよ。そのよい個性（たち）というのが流れているのが家系なので、家の系をないがしろにするようなことを、あまりなさらない方が...。

だから内縁状態というのは、そこを軽く見ているよね。やっぱり籍を入れるというのは、私はすごく大事だと思いますけれどもね。

**釣部**：僕は7年間、工藤さんにも「何で籍入れないの？」と言われた時に、「何で籍入れるのですか？」というのが逆の答えでして...。結局入院したこともあって、それは大きなきっかけでした。まず1つはサインする時に、意識があったので僕は自分でサインしましたが、意識ないと、奥さんじゃないとサインできないのですよね。まずそれが1つ。書類を作って、きっちりとしていけばいいけど、時間がかかるじゃないですか、緊急の場合は...。



というのも思ったのですが。籍入れてから分かったことというか、気が付いたことなのですけど、なぜ籍を入れなかったのかというと、彼女は僕と同じく釣部家の墓に入ることに對して不安があった、迷いがあった。

もっと言うと責任を取れないと思っていたということに気付いたのですよ。彼女が後で教えてくれたのは、「**実は私はどこに行こうが、あなた（自分のご両親）の子です**」と思ったのですって。

ちょっと父と疎遠な部分もあって、死に目にも会えなかったりしたのですが、彼女が「そう思ったら、数日後に僕から「籍入れようか！」と言われた」と言ったので、「何だよ、お前、先に言えよ」と思ったのですが、（その時）何か「あっ！」と思ったのですよね。多分、彼女の心の変化が先にあって、それに僕が反応して言えるようになったのかなと思ったのですよね。そういうのってやっぱり見えない世界の...

**工藤**：そうだと思う。つながっていますからね、全部。

**釣部**：で、お父様の写真。今うちの親父と一緒に飾っていると。何かそれで万代宝書房のビジネスも（流れが）来たかなと。

**工藤**：そうですね。流れがよくなるのですよ。普通の世間の商売人達というのは、家のことと仕事のことを分けて考えているけど、僕らが勉強している団体では、それを分けて考えていない、「**一心同体。一緒なんだよ**」ということを学んでいるのですよね。だから家がぐちゃぐちゃで商売がうまくいくということもないし、**逆に家が整ってくれば、商売も整ってくるというところがあるのが本当に面白いところ**で、その実践の1つとして、やっぱり籍を入れておくというのは絶対必要だと思いますよ、特に一緒にやっていくのであればね。

## いい人なんかいない！

**釣部**：あと、結婚したいと言って結婚できる人と、結婚したいと言っているのだけど、何年も結婚できない人はいると思うのですが...

**工藤**：まず相手がいるか、いないかですよね。相手がいって結婚したくて、相手も結婚していいというのだったらすんなり行くけども、相手はいるのだけれども、結婚したいと言っても、諸事情で今そういう訳にいかないということもあるじゃないですか。だからこういったような諸々の個別事情を分けなきゃいけない。

ただ、相手がいなくて、婚活ってあるじゃないですか。「結婚したいのだけれども、中々いい人が...」という人は、僕、問題が明確に分っていて...。あのね、「いい人」を探しているの。

**釣部**：自分にとって？

**工藤**：そうそう。「いい人いない？」って。男でも女でも、結婚できない人というのは、「誰かいい人いない？」と思っているところがある。婚活していてね。浮草を流すようないい加減な生き方をしている、それで結婚しない人は、根本的に違う理由があるのだけど、結婚したいなと思っているのに相手がいらない人というのは、いい人を探している。

**「いい人はいないんだ」ということが分かっていないの。いい人はいないのですよ。だって「いい人ってどういう人？言ってみて！」**というのと、それは**「条件」**になるじゃないの。

**釣部**：はいはい、条件は出ますね。

**工藤**：だけど条件って、生きていく過程の中で絶対変わるよね。



釣部：変わりますね、はい。

工藤：あと健康そうだと思っていた人が病気になることもあるし、すごい羽振りのよかった人が破産することだってある訳だし、何が起こるか分からないでしょう？

私の年代だと、ものすごく結婚式に出たのですよ。釣部さんも多分、すごく出たと思いますけど。

釣部：出ましたね。

工藤：昭和の終わりから平成の頭って、本当に賑やかな結婚式が、もう、ちよくちよくあった。その時にチャペルなんかだと、神父さんが「健やかなる時も、病める時も、貧しき時も、富める時も、誓いますか？」と尋ねると、これって病気であっても健康であってもリッチであっても貧乏人になってもという意味じゃないですか。つまり「何があっても添い遂げると誓いますか？」と問われて、ニコニコして「誓います！」とか言っていて、ここ（の条件）が崩れた瞬間に別れるやつが多いじゃないですか。「神様の前で嘘をついてんのか？お前ら」という話ですよ。だから、いかに条件で一緒になっている人が多いか。条件は変わるから、「いい人はいない」と最初から決めておかないと駄目ですよ。

幸せになっている人、パターンが分かってきていて、「いい人はいない」ということが分かっていることと、もう一つ、これからご縁を持つ人に対して、「**自分が相手にとっていい人であり続けよう**」と腹をくくっている人から**幸せになる**のですよ。ここなのですよ。

だから相手は関係ないですよ。相手がどんな人であっても、「**その人に対して自分がいい人である**」と腹を決められた人から**ハッピーになるように**できているの。

でも、相手に求めているうちは、ずっと無理なの。このからくりが分からなくて、混沌となさっている方がすごく多いですよ。



釣部：結婚は意味がもう変わってくるというか...

工藤：そうそう。

釣部：世間とか、われわれ巷で思う...、若い時ってそういうものは、あまり思わないというか。

工藤：まあまあ、好きだとか、惚れたはれたで一緒になりますよね。



釣部：僕はバツがあるので。離婚というのね。もうこの人とはできないなという。だから条件が変わったのか、針路が変わったのか、人生の生き方が変わったのか、というのはあるのですけれども。離婚も一概に良い、悪いでは言えないということなのですかね？

工藤：しなくて済むのなら、しない方がいいのでしょうかね。一般論としても、倫理的（倫理法人会として）に考えても。ただ、どうにもならない時というのが多分あると思うのでね。

釣部：暴力とか。

工藤：暴力とかね。でも、私たちの勉強会では、夫が仮に暴力振るったとしたら、その**原因というのは自分にある**という考え方をさせる団体なので、あまり言い過ぎると、ネット社会では炎上になりかねないような話なのですけど（笑）。

でも、そういった理由もあるので、自分が実践できることがまだ残っているという考え方を僕らの勉強会ではしますけどね。

釣部：「結婚の意味」が分かって結婚していれば、離婚しなくてもお互いに「いい人」になろうという努力のプロセスだから、可能だと思うのですけど...

工藤：**相手を通して自分が見えているかどうかですよ。鏡なので、所詮、人というのは、自分の写し鏡として相手が、対象がいるので。**だから相手が自分に対して何か面白くないとか、不愉快な状態があるとしたら、それは何らかの自分が、鏡として映っていると考えた方がいい。そういった意味では、夫婦というのはものすごくピタッと照らし合っている、合わせ鏡ですよ。

釣部：だから一番いい、自分を成長させるパートナーと出会っているという...

工藤：そうそう。成長の糧になるという。これは「相手が僕を成長させてくれる」というのもあるけれども、多分「僕も相手を成長させているんだ」と思うのですよ。

そこをまさに、（さっきの話題の）負荷が大きい（笑）、トレーニング効果が大き過ぎて、負荷が強過ぎて、部活を辞めてしまう子もいるじゃないですか。あのようなものでね。

何か僕の中では、離婚ってそんな感じがしますけどね。負荷が大き過ぎて部活やめてしまう運動部員と似たような感じかなと...

釣部：逆に言うと、**そこがチャンス**だったのかもしれない。**大きくのり越えるチャンス**だったけど...

工藤：そうそう。成長のチャンスの手前で心が折れてしまった。

釣部：離婚した時に、変な話、若い時は条件じゃないですか。100の条件があるとしたら、別に100満たすなんてない訳で、50ぐらい満たしていればいいなと思って結婚して...。ところが別れた訳です。

次、2回目を考える時に、100の条件なんて思わないですよ。50も思わない。何を思ったかという、100アイテムがあったら1。これさえあれば一緒にいれる1というのを自分で見付けたいと思ったのです。

工藤：その1すらも無くなったら、別れます？

釣部：いや、別れないですね。その1すら無くすということなんですよ。



工藤：相手に理由を求めているうちは、幸せになれないじゃないですか。だから「してくれ！してくれ！」と思っている人って、結局は夫婦だけじゃなくて、仕事だってそうでしょう？

「してくれ！してくれ！」と思っている人って、自己実現することはないじゃないですか。例えば会社勤めの方で、「会社が俺に何もしてくれない」とか言っている人で、優秀なビジネスマンっている訳ないじゃないですか。

「自分が何をできるか。自分がどうできるか」ということにコミットメントの強い人から何度も成功してくるでしょう。多分、夫婦生活もそうなんじゃないですか？相手に何か理由を求めているうちは難しい。だから「自分が相手に対していい人であり続けよう」と腹くくっている人から幸せになる。

釣部：なるほど。「100のうちの1だけ」は結構いい線だと思ったのですが（笑）。その1も無いという世界ですよ。

工藤：そうそう。

釣部：本当にピュアですね、そういう自分になれば。それ（求めるもの）を1個1個手放していく。その指針として、この万人幸福の葉<sup>※2</sup>があって、いろいろなこと、仕事なり家庭なりというものの中で、「ああ、こういう自分がいたな」と、1個1個、そこで知っていく。

究極は「自分が何者か」を知っていくというプロセスになるのですかね？こういうことに対して腹が立つ人だとか、うれしい人だとか。



工藤：そういったものも諸々、根っこは全部我儘だと思っているので。

釣部：そう思うことも。

工藤：はい。我のママにしたい心が邪魔しているだけなので、我のママにしたい心が本当に無くなった時、僕たちはすごく自由な心持ちになると思う。そこに行き着きたいなとは思っているのですよね。

釣部：「自由」の言葉の意味になりますよね。世間で考える自由。要は思い通りになるということじゃなくて。

工藤：そうそう。本当の自由というのは、そんな「好き勝手なことをしていいよ」という自由じゃない。

釣部：ということですよ。本当に深いですね、純粹倫理<sup>※3</sup>というのは。

工藤：面白いですよ。



釣部：はい。「相手に*あっていい人になるう*」と、今晚話してみます、うちの奥さんに（笑）。

工藤：お互いそうになったら最高じゃないですか。「俺はお前さんに対して100%いい人であり続けるよ、一生そう決めているよ」「なんだ。あなたもそうなの？私もあなたに対してそう思っているのよ」と言いあったら、もうデレデレ状態ですよ（笑）。幸せでいいですよ。

釣部：昔、何か喧嘩すると、「もう別れたい」とか思っていたのです。でも、籍を入れてからは、別れたいとは思わないのですね。「嫌だなあ」とは思ったり、「ここ変わってよ」とか、「俺もここ変わればな」とかは思ったりするんですけど...

だから1つの「何かあったら別れたい」という思いから、今そうは思わないということは、「*一緒にやるう*」とは決めているのかなと。それは一歩前進したのかなと。

工藤：普通だったらカチンと来るような相手のことも、「*ああ、そうなんだ。君はそう考えるんだね*」という風に受け止められるようになると、喧嘩もしない。喧嘩にもならないですよ。

何か妙にピリピリしていることって、あつたりするんですけど「ああ、そうなんだ、怒っているんだ」と受け止めると、喧嘩にならないですよ。「何だと、コラア」とか言うと、喧嘩になるじゃないですか。

釣部：それはうちの奥さんが優れていますね。スポンジのように。だから喧嘩にならない。奥さんは「*だって私が相手にしていないもんっ*」と。本当に僕1人で怒っているだけで、何か自分がバカかと思えてくる。「何を怒っているんだ？バカじゃねえ？俺」みたいな感じで。

工藤：（笑）

釣部：だから、それは奥さんが喧嘩を買わないというか、スポンジのようにいてくれるから、これで済んでいるのだなと思うんですけど...。そういう自分になるよう目指して生きていきます。

また続き、今度やりたいと思いますので、またお越しいただければと思います。今日はどうもありがとうございました。

工藤：はい、どうもありがとうございました。

釣部：皆さん、お疲れさまでした。【ギャラリーから拍手】

#### 【用語解説】

※1 個性（タチ）＝親、先祖、一族から引き継いできた特性や性質。

※2 万人幸福の栞 17カ条＝倫理運動の創始者・丸山敏雄が、長年の研究と数多の実践・体験を通して抽出した17カ条。時代や国やところの差を問わず、宗教の如何を問わず、職業に拘らず、何時、どこでも、誰でも生活上の根本法則として行えて、道徳の実行と幸福の生活がピッタリと一致する法則。

※3 純粹倫理＝守れば幸福になる厳然とした日常の法則、生活の法則(くらしみち)。

共有:



いいね:

いいね

最初の「いいね」をつけてみませんか。

タグ: [いい人](#), [万代宝書房](#), [事実婚](#), [倫理法人会](#), [婚活](#), [工藤直彦](#), [東京都豊島区倫理法人会](#), [結婚](#), [釣部人裕](#), [離婚](#)

[PREVIOUS](#)

**万人の知恵CHANNEL【第5回】怒らない方法って？ ～「ああ、そうなんだ」の極意～**

Copyright 2019 Bandaiho.com

